段ボール箱を使って
生ごみを堆肥化しよう！

成功させるコツとは！

堆肥にいる微生物が段ボール箱の中で、
ごみを分解し、発酵させて堆肥化するので
微生物を段ボール箱の中で
「飼育するような気持ち」
で取り組んでください。

※　微生物の働きを利用して有機物（ごみ）を分解する

● 用意するもの ●

- 段ボール箱（みかん箱程度の大きさ）
- クラフトテープ（布製のガムテープ）
- 新聞紙（朝刊二日分程度）
- チップ堆肥（バーク堆肥・腐葉土でもよい　約14L）
- 米ぬか（チップ堆肥の4分の1程度の量（容積））
- 水
- ポット皿（花の苗を販売する際入れてある容器）
- スコップ・温度計

用意するもの（写真）

ポイントは！

空気　　水分

米ぬか　生ごみ

①段ボール箱を組立てる･補強する

※段ボール箱のつなぎ目は全てクラフトテープで留める

※底に敷く新聞紙は朝刊2日分程度

② 床を作る その1

※ 床を作る際は、ダンボール内で混ぜ合わせるよりも、別の容器を使い混ぜ合わせる方がよい

③　床を作る　その2

※　堆肥と米ぬかをムラなく混ぜ合わせる

④　湿り気を与える

※　水分量は45%～60%　手でギュッと握ってお団子ができ指先で摘むと
　パラパラと崩れるくらいが望ましい

⑤　生ごみを細かくする

※生ごみを細かくして、できるだけ水分を切る

⑥　生ごみを入れる　その1

断面図（横）

断面図（上）

※　空気・米ぬか・水を加え出来上がった堆肥を段ボール箱に移し、
　堆肥の中央あたりに穴を掘る

生ごみを入れる　その2

① 穴の中に水切りをした生ごみ類を入れる

② 生ごみの上に一つまみの米ぬかを振り掛ける

③ 生ごみに米ぬかと堆肥が付着するようよく混ぜ合わせる

⑦　温度計を入れて保管する

※　よく混ぜ合わせたら、上からフワッと堆肥を被せる。この時、堆肥を押し固めてはいけない（混ぜ合わせた空気が逃げてしまいます）

⑧　保管方法

※　夏場の温度が高い時期に虫が発生するため古くなった網戸を被せる

⑨ 注意事項

- たけのこの皮・たまねぎの皮など土に対して抵抗力のあるものはなかなか分解しません。その他にも、貝殻・タネ類・大きな骨や腐ったものを入れると分解しないほか、腐敗の原因になります。

- うじ虫などの虫が発生した時は、ヌカを多めに入れたり、熱湯を入れるなど堆肥の温度を上げるようにしてください。箱から出しての天日干しも効果的です。

- 生ごみを入れる際は初めから多くを入れないで、様子を見ながら少しづつ増やして行くようにしましょう。（1回の投入量は500gから1kg程度）

- 堆肥の上に白いカビのようなもの（糸状菌）が出てきたら温度が上がり始め微生物による分解が進んでいる証拠です。次回生ごみを入れる際、発酵が進んで、水分が抜け、堆肥がカチカチに固まっている場合はスコップなどで全体をよくほぐしてください。

⑩　次回から生ごみを入れる際は？

段ボール箱全体をよく混ぜて、米ぬかをスコップ大盛り2杯分加えます。
水を適量加えてからさらによく混ぜ、段ボール箱の中央に穴を開けて、水切りをし、細かくした「生ごみ」・一握りの「米ぬか」を入れ、穴の中で生ごみ、米ぬか、堆肥がよく絡み合うように混ぜてください。
最後に周りの堆肥で生ごみが見えなくなるように覆い被せて蓋をすると完成です。

※　生ごみを堆肥の中に埋め込んだ後は、上から押さえつけてはいけません。

生ごみ堆肥の　使用方法

熟成させた堆肥を、土とよく混ぜ合わせて
概ね一週間程度なじませます。

※　すぐに植えつけると再醗酵して根やけ（根腐）
　　することがあります。

⑪　生ごみ堆肥で育てた「野菜・花」

野菜

シャクシ菜

サンチュ

ブロッコリー

花

ムルチコーレ

クリサンセマム

写真　環境事業部内

最後に

環境問題を考え、積極的に取り組む上で、生ごみの堆肥化は非常に有効な方法だといえます。
ですが、継続的に取り組むためには無理をせず、できる量からはじめてください。